

陳情第 5 号



【件名】

『市役所事業総点検』見直しに関する陳情

【要旨】

今般の『市役所事業総点検』は過去に実施されたように、市民参加によって広く市民の声を吸い上げるべきであると思うが、行政のみで実施された。内容については、市民に直結する各種補助金の削減やコミュニティ活動の縮減であるにもかかわらず、和光版 MaaS (自動運転バス) 事業については、推進するものとなっている。このため決定に際しては今後、市民の声を取り入れて決定するよう、議会として求めていくよう要望する。

【理由】

この度、市において『市役所事業総点検』が行われホームページに公表された。これは、市内企業・市・HONDA が協働して実現し、市内外からも好評であった「バイク展示」事業の廃止をはじめ、多くの市民がコミュニティ形成や自治組織の礎として築き上げてきた「市民体育祭」、障害のある方が毎年楽しみにしていたであろう「チャレンジドスポーツ大会」や「絵画展」の回数を見直すものだけではなく、高齢者がいきいきと活動するための「老人クラブ」、市民の健康に資する「体育団体」、地域活性化のための「コミュニティ協議会」、子育て活動に資する各種補助金の見直しや新たな市庁舎周辺のにぎわいプランの凍結など、『今まで』と『これから』の私たちの生活に直結する補助金の削除やコミュニティ活動の縮小・制限をするものとなっている。

一方で、市民の負担となる和光版 MaaS 事業 (自動運転バス) については、議員や市民の合意形成もなく推進されようとしている。この事業は、令和 3 年 6 月定例会において、8 億 8 千万円 (うち国庫補助金 約 1/2) もの巨額の予算がかかるということが初めて判明した。私たちの多額の血税を投入するにもかかわらず、多くの市民が知らぬうちに本当に必要とするものなのかどうか議論を尽くす間もなく計画が進む事には疑問も残る。議会としても、この事業に対して附帯決議を提出し賛成多数で可決していただいた。9 月議会における補正予算審査の時に市の説明では、今後の『ランニングコストも不明』、『収支も不明』、『事業主体も不明』という説明だったことから、今後も我々の血税が知らず知らずのうちに垂れ流しになってしまうおそれがある。

この『市役所事業総点検』の背景には、和光版 MaaS (自動運転バス) 事業を推進するために、財源を捻出する必要が少なからずあると思われるが「私たちが愛する郷土・和光」まさにシビック・プライドの土壌となる、コミュニティ活動を制限し、補助金の縮小・制限することは到底納得いくものではない。したがって、ここに賛同する市民の署名とともに『市役所事業総点検』の見直しを要望するものである。

令和 3 年 11 月 24 日

和光市議会議長 齊藤克己 様

陳情代表者

住所 和光市熟倉 3-1-63-304

氏名 片山 義久

(ほか署名者 138 名)

(署名 (自筆) 又は記名押印が必要です。)